

月日	形態	タイトル	会場	主催者
2020/2/18	主催	「障がい者の舞台芸術活動の支援方法」	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2020/1/11 2020/1/12	主催	トットARTSフェス2020 あなたが楽しいと私もうれしい No hapipiness without you !	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/11/13 2019/11/27 2019/12/18	主催	身体表現ワークショップ	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/11/24 2019/12/22	主催	聞こえない人と聞こえる人の音楽ワーク ショップ	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/11/8	主催	トットARTSフェス2020第3回実行委員会 (第三者委員も出席して助言)	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/10/29	主催	権利擁護の立場から「芸術作品;障がい 特性と支援方法」	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/10/23	主催	芸術作品制作にかかわる研修講座 「舞台芸術における著作権とは」	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/10/24	三者共催	第二回都「障害者芸術活動基盤整備事 業」 三者協議会	愛成会	愛成会法人企画事業部内 東京アール・ブリュットセンターRights
9月～10月	依頼	関係者のネットワークづくり	各団体を訪問または 資料送付	社会福祉法人トット基金
2019/10/4	主催	トットARTSフェス2020第2回実行委員会	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/9/26	依頼	東京都「障害者芸術活動基盤整備事業」 (アーツサポ東京)のPRを依頼	都教育会館	10月の特別支援学校校長会幹事会

月日	形態	タイトル	会場	主催者
2019/9/6	主催	トットARTSフェス2020第1回実行委員会	トット文化館	社会福祉法人トット基金
8月から募集	主催	トットARTSフェス2020実行委員会への参加者(団体・個人)を募集	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/9/24	参加	第1回ブロック連絡会議	レンタルスペース24 南池袋	東京アール・ブリュットサポートセンター Rights(ライツ)
2019/8/28	出張	井崎哲也の身体表現ワークショップ	ワンブリッジ町田	社会福祉法人トット基金
2019/7/26	主催	アダム・ベンジャミン 障害を持つ方々や支援者と一緒に表現 することの楽しさを学ぶワークショップ	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/7/25	主催	アダム・ベンジャミン 障害を持つ方々や支援者と一緒に表現 することの楽しさを学ぶワークショップ	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/6/26	三者共催	第一回都「障害者芸術活動基盤整備事業」 三者協議会	都庁障害者施策推進部	共生社会推進担当 社会参加推進担当
2019/3/16	協力	【TA-net】盲ろう者の観劇サポートワークショップ(8回)	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/3/1-6	主催	「トットARTSフェス2019+わ!しながわ」	トット文化館/きゅりあん/JO美術館	社会福祉法人トット基金
2019/2/23	主催	美術作品展示方法を学ぶワークショップ	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/2/6	主催	美術作品展示方法を学ぶワークショップ	トット文化館	社会福祉法人トット基金

月日	形態	タイトル	会場	主催者
2019/2/2	協力	【TA-net】盲ろう者の観劇サポートワーク ショップ(7回)	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2019/1/19	協力	【TA-net】盲ろう者の観劇サポートワーク ショップ(6回)	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2018/12/15	協力	【TA-net】盲ろう者の観劇サポートワーク ショップ(5回)	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2018/12/3	主催	芸術作品にかかわる著作権とは	三ツ木会館	社会福祉法人トット基金
2018/12/3	主催	芸術作品:障がい特性と支援方法	三ツ木会館	社会福祉法人トット基金
2018/10/20	協力	【TA-net】盲ろう者の観劇サポートワーク ショップ(4回)	トット文化館	TA-net
2018/9/29	協力	【TA-net】盲ろう者の観劇サポートワーク ショップ(3回)	トット文化館	TA-net
2018/7/21	協力	【TA-net】盲ろう者の観劇サポートワーク ショップ(2回)	トット文化館	TA-net
2018/5/12	協力	【TA-net】盲ろう者の観劇サポートワーク ショップ(1回)	トット文化館	TA-net
2018/3/9	参加	第3回全国連絡会	厚生労働省	社会福祉法人グロー、ビッグアイ
	参加	ブロック合同研修会	愛成会	社会福祉法人愛成会

月日	形態	タイトル	会場	主催者
2018/2/28	参加	第4回アーツイベント実行委員会	愛成会	社会福祉法人愛成会
2018/02/17-18	主催	トットARTSフェス2018	トット文化館	社会福祉法人トット基金
2018/2/3	協力	身体表現ワークショップ	ターナーギャラリー	社会福祉法人愛成会
2018/1/28	参加	第2回全国報告会(舞台表現分野)	ビッグアイ	ビッグアイ
2018/1/27-28	主催	美術展示	国立能楽堂	社会福祉法人トット基金
2018/1/17	参加	第3回ブロック連絡会議	愛成会	社会福祉法人愛成会
	参加	ブロック合同研修会	愛成会	社会福祉法人愛成会
	参加	第3回アーツイベント実行委員会	愛成会	社会福祉法人愛成会
2017/12/1	参加	第7回障害とパフォーミングアーツ研究会	アーツカウンシル東京	アーツカウンシル東京
2017/11/19	参加	TOKYOみみカレッジ	首都大学東京	東京都

月日	形態	タイトル	会場	主催者
2017/11/15	参加	第2回ブロック連絡会議	愛成会	社会福祉法人愛成会
	参加	ブロック合同研修会	愛成会	社会福祉法人愛成会
	参加	第2回アーツイベント実行委員会	愛成会	社会福祉法人愛成会
2017/11/11	主催	手話狂言ミニ公演・サインマイム	奈良県文化会館	社会福祉法人トット基金
2017/11/10-11	主催	手話狂言ワークショップ	奈良県文化会館	社会福祉法人トット基金
2017/11/7	参加	東京都特別支援学校校長会 幹事会	東京都教育会館	東京都特別支援学校校長会 幹事会
2017/10/22	協力	エル・システム ガラコンサート	東京芸術劇場	駐日ベネズエラ・ボリバル共和国大使館、 東京芸術劇場 他
2017/10/21-22	協力	「アート村」作品展	東京芸術劇場	(株)パソナ・ハートフル
2017/9/29	参加	品川区障害者施設等交流会	福栄会	社会福祉法人福栄会 品川区
2017/9/26	参加	第1回全国連絡会議	ビッグアイ	社会福祉法人グロー、ビッグアイ

月日	形態	タイトル	会場	主催者
2017/9/23	協力	第20回メディア芸術祭	トット文化館	文化庁
2017/9/20	参加	第1回ブロック連絡会議	ターナーギャラリー	社会福祉法人愛成会
	参加	ブロック合同研修会	ターナーギャラリー	社会福祉法人愛成会
	参加	第1回アーツイベント 実行委員会	ターナーギャラリー	社会福祉法人愛成会
2017/9/18	参加	障害×アート見本市	アーツ千代田3331	NPO法人エイブル・アート・ジャパン

概要

都下に住む障害者の芸術活動を持続的に支えるきっかけを学ぶ

1/11(土)「精神障害者の声を聞こう～演劇の出会いと回復のストーリー」東京ソテリア。”十日えびす”みんなで

地唄舞盆踊り(地唄舞普及協会)。1/12(日)身体表現ワークショップ(井崎哲也)。手話で歌おう(上智大学手話サークルでのひら&西品川六町会)。「リズムと即興」(聞こえる人と聞こえない人の音楽)。神威龍牙率いるWARLD HEROたちによるコンサート&アクション。来館者及び参加者200名

講師:井崎哲也(日本ろう者劇団顧問)

身体表現ワークショップでは、いろいろな遊びを通して、ありのままの自分を引き出し、イメージを膨らませてゆく。11/13-15名、11/27-8名、12/18中止

講師:瀬木恭子(ソヤスピアニスト、即興演奏家)

音と振動が交互する空間を作り出す。ペットボトルを使ったマラカス(打楽器)やダンボールを使ったギロを製作。製作した楽器で演奏。成果をトットARTSフェス2020で発表・交流

第三者委員は、実行委員会方式を取入れたことを評価。多様な意見が出る過程で共通認識ができて、良いプログラムが構成される。上智大学手話サークルと西品川六町会協働の取組み紹介。

ARTSフェス2020のチラシとプログラムを確定

講師:高山由美子(レオナルド学院大学 総合人間学部教授) 15名(障がい4、その他11)

知的財産権、著作権の対象範囲、遵守事項、事例の紹介。障がい者(児)の「芸術活動を支援しようとする福祉施設等の職員や地域の人々を対象にした、支援者育成のための研修

講師:上野真裕弁護士(東京弁護士会所属)

知的財産権、著作権の対象範囲、遵守事項、事例の紹介 13名(障がい4、その他9)

愛成会、トット基金の相談状況、支援方法、今後の取組を紹介。トットARTS2020に向けてプログラムの応募状況を説明。

都障害者会館にチラシ、パンフレットを直さ行事日程等を周知。東社協身体障害者福祉部会、手をつなぐ育成会、都精神保健福祉連絡会、都身連団体連合会、都盲人福祉協会、都聴障連盟、中途失聴・難聴者協会等に訪問または資料送付し、支援センター活動をPRした

地唄舞(言葉より雄弁な体で語る芸術)①十日えびす②鉄輪(かなわ)③鶴の声を提案。稽古なしで誰でもササを持って踊れる十日えびすを採用。神威龍牙とスーパーキャラクター達のアクションショーの説明。

東京都「障害者芸術活動基盤整備事業」(アーツサポ東京)の舞台芸術部門において、東京都

地域の拠点センターの役割を担っていることを説明。校長会での報告とパンフレット配布を依頼

概要

実行員会参加団体・個人の活動紹介。井崎哲也氏のワークショップ。地唄舞花崎玉女師匠の提案を含め、実行委員の皆さんが意見交換を行った。

初めて実行委員会方式を取入れたことにより、舞台芸術部門の斬新な企画案が提案された。

南関東・甲信ブロック第1回ブロック連絡会議。①人材育成研修 ②作家や支援者などへの取材

③ラジオスタイルによるアーカイブ及び映像配信 ④ホームページのリニューアル等

井崎氏が指揮者の役を担い、様々な障がい者がオーケストラの団員になって、楽器を手にして弾くワークショップ。参加者全員で輪をつくり、隣から伝わってきた動作を正確にとなりの人に伝える

ことで「聞く言葉」から「感じる言葉」を体験

15名参加。二人一組がペアになり片方が目を閉じ、もう一人が手を取り自由に会場を誘導。少しずつ手を放していくと、7組ペア全体の動きが一つの様式となり会場全体が調和美を創り出す。

29名参加。「自分の身体に聴く」、「お互いを聴く」ことで共に創り上げていくことの楽しさを共感する。

美術部門は、愛成会東京アール・ブリュットセンターライツが、舞台芸術部門は、トット基金がそれぞれ拠点支援センターの役割を担い、実施計画書を説明して意見交換を実施。

盲ろう者の観劇サポート方法についてその8

フェスティバル

美術館などの展示方法について応用的に学ぶ

美術館などの展示方法について

概要

盲ろう者の観劇サポート方法についてその7

盲ろう者の観劇サポート方法についてその6

盲ろう者の観劇サポート方法についてその5

著作権が発生する事柄やその対応方法について

障がいに関わる芸術において両者の支援方法について

盲ろう者の観劇サポート方法についてその4

盲ろう者の観劇サポート方法についてその3

盲ろう者の観劇サポート方法についてその2

盲ろう者の観劇サポート方法についてその1

支援センターの活動に関する課題に、どのように対処し何が達成されたか、残された課題は何かを振り返り、「今年一番のエピソード」として成果を紹介し合いました。社会的インパクト評価ロジックモデル構築研修では、短期的・長期的な社会的成果の観点から一つ一つの活動を計画し、実施後の評価を通じて活動の有意義さを実証していく手法を学びました。コミュニケーション・デザイナーの加藤未礼氏の進行で、アートを通じて地域とのつながりをつくり、ネットワークを広げていく方法を学びました。小茂根福祉園などの事例紹介から、具体的な活動やプロセスを知ることができました。

概要

ブロック合同フェスティバル「表と現」の振り返りを行い、小グループに分かれて、参加者の反応や感想を話し合いました。

障害者芸術文化活動普及支援事業による初めての総合的な参加型展示・公演事業。美術展「光と陰」と延べ6件のステージ・プログラムに、160人以上のお客様をお迎えしました。ステージでの情報保障と美術展ガイドツアーなどで、聴覚や視覚に障害のある方々にも一緒に楽しんでいただくことができました。(活動報告「トットARTSフェス2018」をご覧ください)

障害者芸術文化活動普及支援事業における南関東・甲信ブロックの参加型イベント「表と現」の開会式において、日本ろう者劇団が身体表現ワークショップを行いました。会場の皆さんに参加を呼びかけ、皆でひとつの表現をつくったり、思い思いの表現を披露してもらったりして、からだを使って表現する楽しさを共有しました。

障害者芸術文化活動普及支援事業における本年度の舞台表現分野の活動について、地域ブロックごとに報告と実演・映像紹介を行いました。代表者によるディスカッションでは、各障害と舞台芸術の両方を理解して福祉と文化をつなぐことのできる人材の必要性、地域づくりや市民運動など異分野とのつながりなどに、話題が広がりました。

日本ろう者劇団による「第37回手話狂言・初春の会」の会場ロビーに、ろうの写真家として国内外で評価の高い井上孝治氏の写真、(株)パソナ・ハートフル「アート村」の作家による伝統芸能をテーマとする絵画、劇団メンバーによる造形などの作品を展示しました。

舞台表現分野での支援活動について、各団体の現状と課題を報告しあいました。全国連携を担うビッグアイより、支援活動の趣旨の確認、特に重要な活動の進め方などについて、説明いただきました。

弁護士の山崎純氏より、「美術・舞台芸術における権利保護について」と題するレクチャーをいただきました。主として著作権法の観点から、具体的な留意点や、展示、二次利用に際する手続き等について、ライセンスが作成されたハンドブックを用いて、講義いただきました。

2018年2月開催のブロック合同フェスティバル「表と現」に向けて、展示の方法や留意点について学び、進行要領を確認しました。

アーツカウンシル東京の助成を受ける団体の活動紹介、アーツカウンシル東京による企画公募の説明等が行われる研究会において、「アーツサポ東京」の活動を紹介しました。

聴覚障害や手話についての理解を深める目的で毎年開かれるイベントに、出展しました。来場者ひとりひとりにアーツサポ東京の活動について説明し、利用を呼びかけました。

概要

各団体の美術と舞台表現の活動について報告し、ネットワークの作り方、関心の広げ方、行政との連携の進め方などについて、ノウハウを交換したり、悩みや苦労を共有したりしました。トット基金より奈良での公演・ワークショップの報告も行いました。

(株)朝日エルの岡山慶子会長より、「効果的な広報周知」に関してレクチャーいただきました。まず、メッセージを届けたい相手についてよく知ること、その相手にメッセージが届きやすい方法を選ぶこと、効果があがりやすいよう内容を整えることなどを、ワークを通じて具体的に学びました。

2018年2月開催のブロック合同フェスティバル「表と現」の概要説明につづいて、「アーツサポ東京」およびトット基金の活動紹介を行いました。ワークショップでは、「表」と「現」について各参加者が発表し、「みんなのダンスフィールド」のリードで身体表現にチャレンジしました。

「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」連携事業として、手話狂言のミニ公演を行いました。「サインマイム」につづき、「附子」を披露、衣裳は付けず「紋付」によるデモ公演という初めての試みでした。奈良在住のろう者をはじめ、40人以上の観客に鑑賞いただきました。(活動報告「奈良公演」をご覧ください。)

「第17回全国障害者芸術・文化祭なら大会」連携事業として、和泉流狂言師と日本ろう者劇団団員が、手話狂言を指導しました。参加者は、ろう者と健聴者がおよそ半々。所作を習い、手話と声のセリフをそれぞれ覚えて、合わせることにチャレンジしてもらいました。(活動

「アーツサポ東京」の活動について説明し、周知を依頼しました。

ガラコンサートのメインプログラム「東京ホワイトハンドコーラス」において手話指導(日本ろう者劇団 井崎哲也)などの協力をしました。(活動報告「東京ホワイトハンドコーラス」、「東京ホワイトハンドコーラス公演」をご覧ください。)

「エル・システム・フェスティバル2017」において音楽にまつわる絵画の展示企画と実施に協力しました。さまざまな楽器や指揮棒を手にした、生き生きとした表情の音楽家を描いた15点の作品が、東京芸術劇場のホワイエに並びました。(活動報告「東京ホワイトハンドコー

品川区区内にある障害者就労支援施設等と品川区障害者福祉課が一堂に会し、約100名で情報交換を行う交流会で、「アーツサポ東京」を紹介しました。

厚労省「障害者芸術文化活動普及支援事業」の全国の実施団体と自治体など50名余りが一堂に会し、厚労省担当官から事業の説明を受けた後、舞台芸術と美術の小グループに分かれて、事業遂行上の課題や解決に向けた工夫等を話し合いました。

概要

サテライト会場(トット基金)でのプログラムとして、手話弁士付きで映画「声のかたち」を上映。(参加者70名)原作者らによる対談、ろう者の俳優によるワークショップなどを実施し、情報保障の整備にも協力しました。

厚生労働省「障害者の芸術文化活動普及支援事業」における南関東・甲信地方の拠点が初めて一堂に会しました。埼玉県から社会福祉法人みぬま福祉会、山梨県から社会福祉法人八ヶ岳名水会、栃木県から認定NPO法人もうひとつの美術館が、ともに参加しました。

アーツサポ東京の協力者でもあるNPO法人シアター・アクセシビリティ・ネットワークの理事長・廣川麻子氏による「障害のある鑑賞者への支援について～みんなと一緒に楽しもう～」と題する講演。舞台公演に際する字幕ガイド、手話通訳、舞台説明会など、情報保障のさまざまな方法について、具体的に学びました。

昨年度のイベントにも参加した団体のスタッフなど30名ほどが、会場下見を兼ねて集まりました。2018年2月に開催予定の参加型展示会に向けて、コミュニケーションデザイナー加藤未礼さんをファシリテーターに、「表現」について考えるワークショップが行われました。

「障害のある人と一緒に芸術文化を通じて人と社会の可能性を探る」ために異分野のネットワークを拡大しようと、官・民の中間支援組織など、20を超える団体のブースが出展。韓国からの訪問団を含め多数の来訪者で、会場は午前から午後まで賑わいました。「アーツサポ東京」初のお披露目の場として、できたてのリーフレットをブースに並べ、活動計画を説明しました。多くの方々と出会い、情報交換、意見交換を行うことができました。